

第二鱒ヶ沢地区広域漁場整備事業効果調査

(要 約)

高橋 宏和

目 的

第2 鱒ヶ沢地区広域漁場内の着底基質（日本コーケン：セッカブロック 20t 型）に生育するホンダワラ類等海藻等の水産生物及びホンダワラ類等海藻へのハタハタ産卵状況を調査する。

材料と方法

1. ホンダワラの生育状況調査

平成 22 年 6 月 28 日に第2 鱒ヶ沢地区広域漁場内に 4 調査線及び 8 調査地点を設定し、着底基質に生息する海藻の被度、底生動物の枠取り、魚介類の目視調査を行った。

2. ハタハタの産卵状況調査（広域漁場）

平成 23 年 1 月 12 日にホンダワラの生育状況調査と同調査地点において、海藻の被度、底生動物の枠取り、魚介類の目視調査を行うとともに、ホンダワラ類に付着するハタハタ卵塊について調査した。

3. ハタハタの産卵状況調査（天然漁場）

平成 23 年 2 月 27、28 日に深浦町岩崎地先と鱒ヶ沢町地先において、海藻の被度、底生動物の枠取り、魚介類の目視調査を行うとともに、ホンダワラ類に付着するハタハタ卵塊について調査した。

結果と考察

1. ホンダワラの生育状況調査

調査範囲内で確認された海藻は、緑藻 1 種（アオサ）、褐藻 9 種（エゾヤハズ、セイヨウハバノリ、ケウルシグサ、ワカメ、マコンブ、フシスジモク、ホンダワラ、アカモク、フシイトモク）、紅藻 8 種（ツノマタ、ムカデノリ、フダラク、フシツナギ、イギス属、ミツデソゾ、ソゾ属、イソムラサキ）の計 18 種が確認された。出現した魚種は、ウミタナゴ、クロダイ、メバル、ウスメバル、クジメ、アイナメの計 6 種であった。

2. ハタハタの産卵状況調査（広域漁場）

ホンダワラ類の種別、個体別にハタハタ卵塊の付着状況について確認したところ、着底基質本体にはハタハタの卵塊が付着していたものの、藻体へのハタハタ卵塊の付着は確認されなかった。このことから、当初、ハタハタ卵塊は、ホンダワラ類及び着底基質に付着していたものの、その後時化等の影響により海藻に付着していた卵塊は脱落した可能性が考えられた。

3. ハタハタの産卵状況調査（天然漁場）

深浦町岩崎地先では、ホンダワラ類 6 種（ジョロモク、フシスジモク、トゲモク、ヤツマタモク、マメタワラ、ヨレモク）が確認され、水深 20～45m ではヨレモクが 80～90% を占めていた。ヨレモクにはふ化後のハタハタ卵塊が多数付着していた。

鱒ヶ沢町地先では、ホンダワラ類 3 種（アカモク、ミヤベモク、ヨレモク）が確認されたものの、ハタハタ卵塊はアカモクに 1 塊が確認されたに過ぎなかった。

発表誌：平成 22 年度第 2 鱒ヶ沢地区広域漁場整備事業効果調査業務委託報告書。青森県産業技術センター水産総合研究所，平成 23 年 3 月。